



水谷公民館だより

編集 水谷公民館だより編集委員会
発行 富士見市立水谷公民館 / 住所 富士見市水谷 1-13-6
TEL 049-251-1129 / FAX 049-255-9886

もくじ

- <1面>
 - ・特集 始動501号～歴代の編集委員から～
- <2面>
 - ・水谷公民館からのお知らせ
 - ・こんにはコーナー



始動！501号

～歴代の編集委員から～

さらに充実した公民館だよりを



水谷公民館だより 昭和54年8月 第1号
(平成17年1月号まで手書きが続きました)

富士見市内の公民館だよりは、館によりそれぞれ特色がありますが、「水谷公民館だより」は先輩編集委員の方々の多種多様な学びと努力によってここまで続いてきています。

これからも私たち編集委員は先輩たちの足跡を汚さないよう取材に邁進してまいります。そして「見やすい紙面とレイアウト」「より伝わりやすい文章表現」に気をつけながら、社会教育専門職員の方々とがんばっていききたいと思えます。地域の皆さまも取り上げて欲しい内容などありましたら、ご意見をお寄せください。この501号は先輩編集委員の方々が、どう取り組んできたのか、その思いを語っていただくことにしました。地域にこんな素晴らしい方がいます。

編集長 佐々木 真理子

私の青春の時



米山 隆一
(平成3年～平成12年)

500号達成おめでとうございませう。長きにわたる地域の皆さんのご協力と、歴代編集委員、行政の努力の賜物です。

私が編集委員になったのは200号前後の9年間です。皆さんは若く地域の力になる思いで、難しさや忙しさをいとわぬ姿勢に助けられました。編集会議は夜にやっていたが、議論がまとまらず、時計にらめつことも度々でした。

取材で行政機関を始め、編集委員だから行く事が出来た所も沢山ありました。あの時の経験は自分達を成長させてくれたといつも感謝しています。

公民館だよりは地域の情報紙として役立っています。そして時が経つてみますと水谷地域の記録として大きな価値があります。これからも地域の交流の場であり、歴史的資料として長く続いて行くことを願っています。

地域の話題を追って



京谷 恵子
(平成8年～平成15年)

ご近所の方から誘われ、200号の頃から参加しました。出会いは今でも大きな財産です。

編集委員みんなで学ぶ企画が多く、地域も超えて、保健所、警察、近隣市町村で取材したり、逆に旧浦和市や遠く岐阜県多治見市からの取材では視野も大きく広がりました。阪神大震災後に地域の防災を考えた時は、全員で真剣に何度も話し合い、井戸端会議風に編集委員会の雰囲気を変えた号を出しました。

印象深いのは「はなしの博物館」の連載で、初回はさながら昔のガキ大将たちが集結したような雰囲気の中で、当時70～80代の話者4名の聞き書きをしました。戦前から区画整理前の水谷で過ごす生活が話題の中で、とても興味深かったものです。

祝500号突破



萩元 不二夫
(平成11年～平成20年)

公民館だよりの編集に携われたことは私にとって今でも貴重な体験です。

当時を思い起こすと大変なことも多かったけれど、色々な勉強をすることができたし、何よりも編集委員の皆さんと親しくなれて和気あいあいと楽しく編集活動ができたことは一生忘れることのない大切な思い出です。そんな私の記憶に残っているのは、それまで手書きの紙面をパソコンを使った紙面に変えたことです。先輩が守ってきた手書きの良さを捨てるのは委員全員の苦渋の決断でしたが、大幅な省力化につながりました。これからも公民館だよりは変化や冒険を恐れず、地域の情報と魅力を発信し続けて行ってほしいと思います。

旧編集委員としての感想



是永 国彦
(平成18年～平成28年)

過去に公民館だよりの編集委員を担当する中で、大変貴重な経験をさせていただきました。この活動を通じて感じたことや学びを以下にまとめます。

公民館だよりの企画や取材を行う中で、多くの地域住民の方々と直接話をする機会もありました。住民一人ひとりの声やアイデアを取り入れることで、公民館だよりが地域にとってより親しみやすいものになると実感しました。

また、住民の皆様の熱意や思いに触れ、公民館がどれほど大切な存在であるかを再確認しました。

最後に公民館だよりを通じて、地域を盛り上げる活動に携われたことに深く感謝しています。

この経験は、今後も自分自身の生活に生かされると思えます。これからもさらに充実した公民館だよりになることを楽しみにしております。

公民館は、学校教育と共に教育の両輪を構成する社会教育の大切な組織です。公民館を利用する人たちは趣味や運動のサークル活動で利用するだけでなく、多様な講座の参加や学習を育てる環境を保障してくれる場として公民館を活用しています。

かつて富士見市には「社会教育だより」という通信があり、市民の知りたい情報や学ぶ権利を満足させてくれる講座の紹介などで満ちあふれていました。現在は各公民館で発行している「公民館だより」が地域での学びを支えてくれるツールとなっています。